

2020年グリーンファイナンス市場動向：日本 概要

2021年3月末、Climate Bonds Initiative（CBI）は、日本のグリーンボンド市場に関するレポートを出版しました。同レポートは、日本における2020年12月31日までのグリーンボンド発行について、CBIのデータベースを情報源として作成されたものです。以下は、その概要です。

2020年のグリーンボンド発行

- 2020年のグリーンボンド発行額は、106億米ドル。この額は、世界第7位。

グリーンボンドの累積発行額

- 日本のグリーンボンドの累積発行額は、261.5億米ドル。これは、国別には、世界第9位。
- 調達資金の充当セクターとして最も多いのがビルディング(35%)。そして、交通(29%)、エネルギー(28%)の順番となっている。
- 発行額の86%については、外部レビューを取得している。
- 償還期間については、10年までのグリーンボンドが大部分(約80%)を占めており、このうち5年までが50%。
- グリーンボンド発行額の70%が、発行額が1億米ドル以下である。
- 発行額の66%が日本円建てで発行されている。
- 発行額の73%が資金使途およびインパクトの両方について、レポーティングを実施している。

グリーンボンドと称してはいないが気候整合性のある（Climate-aligned）債券

- グリーンボンドと称していない債券の中には、気候整合性のある資産や活動に資金を充当している債券がある。気候整合性のある債券は、以下のように発行体レベルで特定できる。
 - 気候整合性のある事業からの収入が95%かそれ以上を占める、完全に気候整合性のある（fully-aligned）発行体による債券
 - 気候整合性のある事業からの収入が75%-95%を占める、大いに気候整合性のある（strongly-aligned）発行体による債券
- 気候整合性がある日本の債券の負債残高は、計133億米ドル（114債券）である。このうち、87%が交通セクター、11%が土地利用・農業セクターに充当されている。
- 気候整合性のある日本の債券の中で、2024年までに償還を迎える債券は36億米ドルある。これらは償還後、グリーンボンドの発行によるリファイナンス等により、今後の

ラベル化されたグリーンボンド市場の拡大につながる可能性がある。

この他、日本におけるグリーンファイナンスに関する政策や制度等の情報も掲載されています。